



入賞おめでとう

防火・防犯・交通安全ポスター審査会を開催

8月17日(土)古牧公民館において「第43回古牧地区防火・防犯・交通安全ポスター審査会」が行われました。古牧12地区の小・中学生から314点の応募がありました。

審査は昨年同様に作品の展示の仕方や投票の方法などを工夫し、同じ部門の作品をまとめて展示し、各地区より5名の審査員が指定の時間内に来場し投票を行う方法で審査会が開催されました。

どの作品もすばらしい力作で子ども達の作品への意気込みと真剣さが強く伝わってきました。審査の結果、消防分団長賞をはじめ6つの部門の優秀賞作品18点が選ばれました。入賞されました優秀賞作品は3面から4面に掲載させていただきました。

今回のポスター事業にご協力いただきまし



た各地区の小・中学校の育成会・PTA並びに保護者の皆様と事業を共催いただきました消防団長野第6分団の皆様にお礼を申し上げます。

なお、9月1日に開催を予定しておりましたポスター表彰式は台風10号の影響を考慮し中止とさせていただきました。

(防犯部)

～大地震に備える！～ 防災研修会を開催

「古牧自主防災連絡会防災研修会」が8月10日(土)に古牧公民館集会室で開催されました。講師に信州大学学術研究院教育学系の



ひろうちだいすけ 廣内大助教授をお迎えし、自主防災連絡会長はじめ副会長、各区の正副区長や防災指導員、区役員などが参加しました。廣内教授の今回の演題は「大地震に備えるための地域の取り組みとはなにか」でした。

最初に令和6年1月1日16時10分に発生しましたマグニチュード7.6の能登半島地震について、実際に現場に行かれ調査した状況を話していただきました。この地震の特徴は、

次頁へつづく

地殻変動（隆起）によって土地が3～4メートル以上盛り上がり海岸線が露出したとのことでした。人的や住家被害が多く発生、特に避難者は34,000人以上という状況でした。ライフラインが寸断され平穏な日常生活が突如奪われた不便な状況になり、被災された方々からは、「まさか自分が被災するとは思ってもしなかった」、「災害は他人事と感じていた」という声が多数であったとのことでした。是非、自分の身に起こりうるということを普段から知っておいてほしいと言われました。

次に、私たちの郷土で起きた善光寺地震（弘化4年（1847）3月24日午後10時頃発生）について学習しました。市中での死者は2,486人（内旅人1,029人）、全体では8,000～12,000人に上り、御開帳の時期にあたり市内に参詣客が集まって被害を甚大にしたということです。この地震は活断層による地震で推

定マグニチュードは7.4の典型的な内陸直下型地震とのことでした。活断層地震に備えるには「壊れない家・最低限の備蓄・起きた時どうするか決めておく」また、住民同士のネットワークが大切であるとのことでした。

今、モデル地区として過去に松代群発地震があった松代地区では、住民主体の避難所開設体制づくりを行っており、中学生を交え現場確認や話し合い、実際に避難所開設初動訓練を重ねて行っているという事例の紹介もしていただき、今後の地域の取り組みについて大変参考になるお話でした。

古牧地区の皆さん、いつか自分が被災するかもしれません。他人事と思わずに日頃から地震などの災害に備え、事前に食糧の備蓄、避難や連絡方法など家族で話し合い確認してください。古牧地区は「災害に強い安全で安心して暮らせるまちづくり」を目指しています。（総務部）

新種目 ボッチャも大盛り上がり！！ 公民館交流球技大会

古牧地区公民館球技大会が8月18日（日）に開催されました。

今回も昨年同様に、交流球技大会という形で実施されました。

大会では、野球と卓球に加えてボッチャの体験会が行われました。

野球は犀川河川敷第二グラウンドで11地区のチームが参加し、4つのグループに分かれて2試合ずつの試合を行いました。

今年も、炎天下の中、多くのファインプレーやホームランがあり、白熱した試合展開でした。応援に駆けつた人たちも多くの声援を送っていました。

卓球は市営古牧体育館で5地区6チームが参加し、こちらも各チーム2試合ずつの試合を行いました。昨年同様に男女シングルスと男女混合ダブルスの合計5ゲームで勝敗をきそいました。

各チーム試合前から真剣に練習する姿があ

り、こちらも白熱した試合展開が続き体育館には熱気があふれていました。

ボッチャの体験会は古牧小学校西体育館で11地区12チームが参加しました。

ボッチャはパラリンピックで1988年のソウル大会より正式競技として採用されている競技ですが世代を問わずできる競技です。ほとんどの参加者が未経験者でしたが、指導員の方々の指導もあり、とても盛り上がっていました。

体験会として実施しましたが、みなさん盛り上がり、順位づけの試合に発展していました。ある大人のチームの一人は、対戦相手が小学生だったが「負けてしまって悔しい。また勝負したい!」と言っていました。

来年も引き続きボッチャを球技大会の種目として実施する予定です。

今後もより多くの人々が楽しく安心して参加出来る球技大会を実施します。（公民館部）

第43回 古牧地区 防火・防犯・交通安全ポスター入賞作品

(敬称略)

交通安全協会会長賞



小1 成澤 亜実



小2 伊藤 萌夏



小3 清水 暁文

防犯協会会長賞



小4 小山 奏



小5 井上 聡祐



小6 高山 ひより

和田交番所長賞



中1 田中 悠希



中2 坂本 登希雄



中3 小泉 杏菜

第43回 古牧地区 防火・防犯・交通安全ポスター 入賞作品

(敬称略)

消防分団長賞



小1 徳武 花



小2 堀 こまち



小3 関 蒼太

消防団長賞



小4 土屋 悠風那

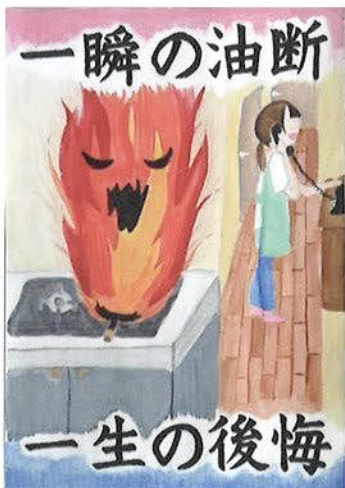


小5 上林 空杏



小6 宮尾 咲良

消防局長賞



中1 西澤 なずな



中2 樋口 響介



中3 高池 綾菜

猛暑の中の熱戦

野球



犀川河川敷グランド



卓球



市営古牧体育館



ボッチャ



古牧小西体育館



歴史探索

ぐるりおがまち

上高田区

太郎社「蚕神さん」

古牧郷土史研究会 宮原 弥曾彦

芋井神社本殿東側に小さな社があります。元はファミリーマート高田店南東側のインター線道路敷の一部にあったもので、長い間「蚕神さん」として農家の崇敬の対象になってきましたが、道路建設に伴い今の場所に移設されたものです。

ところで道路用地として買収の対象になった社地は54名の共有名義で、明治32年3月の登記でしたが90余年間一人の権利移動の登記もなく当時の名義のままでした。

そこで売却のための手続きとして、子孫が

次頁へつづく

明確な場合は現当主で相続放棄をし、それ以外は占有の時効援用によって、一旦、名義を社殿の所有者である芋井神社に帰属させ、その売却代金は丁度建設途上の公会堂に資金として寄付、以後公会堂の一室は神社社務所に位置づけられています。



実はこの社は元々芋井神社の本社（宮殿）でした。今の神社本殿（覆殿）は明治13年に改築していますが、その際その中に鎮座する本社新装の記録がなく、おそらくその後養蚕業が盛んになり資金的に余裕ができた農家が中心となって本社を新装、従来の本社を養蚕の神「蚕神さん」として、資金を出し合って購入した土地に遷座、崇敬してきたものと考えられます。

いずれにせよ長年覆殿の中で大切にされてきた社殿が、外に出されて125年間、風雨にさらされてきたため老朽化が激しく、今後何らかの対策が講じられて、先人たちが心のよりどころとしてきた思いを込めて、子孫の一人としても末永く崇敬していきたいものと思っています。

しゃばえんびつ



子育て支援

平林の友愛ボランティアの子育て支援の役員となり4年目になります。コロナ禍の中での活動は難しい年もありましたが、昨年からやっと再開出来るようになりました。

しかし、今時の社会情勢の中、少子化、共働きの保育園利用などと、お子さんの集まりが少なく参加者0人というさみしい回もありました。

そんな中でも、役員の皆さんの隠れた努力で手作りのおもちゃ、おやつの買い出し、日頃からの親子連れのお母さんへの声掛けなどで今年は今のところ0人という回は無く何とか数組の親子さんに参加いただいています。

子育て支援の役目は親子さん同士のつながり



の場の中で、核家族の子育ての閉じこもりを少しでもやわらげ、子育てを楽しんで行けるように手助け出来たらと思います。

来ていただいているお子さんは0才～3才程の小さなお子さんが多く、私達役員は、子育てがとうに過ぎておられる方々ばかりですが、懐かしい子守を思い出し、これからもお子さんとワイワイ楽しみたいと思います。

(斉藤由美子)

10月から11月までの主な行事实施日のお知らせは回覧等でお知らせします。



古牧地区の世帯数と人口

令和6年9月1日現在

11,877 世帯

26,076 人

(男 12,916人 女 13,160人)

■発行所 古牧地区住民自治協議会
(電話259-8359・FAX219-1057)
(E-mail: komaki@vivid.ocn.ne.jp)

■発行者 西澤 征防
■編集 ぷらネットこまき編集委員会
■印刷 ㈱小池印刷



HP
ご覧ください